昔の新発田川はきれいだった

◆新発田川が生活を支えた

城下の人々の利用する水は、飲用も含めて、基本的に新発田川の川水に求めてきた歴史がある。

まちの掘抜き井戸から得られる地下水には鉄分が多く、飲用にできるのが少なかったためである。人々が飲用として使ったのは、現清水園入口にあった井戸など、四ヶ所あった公共の井戸だけであった。昔の新発田川は生活用水として利用できるほどきれいだった。

明治・大正期までは、新発田川の川水を飲用水として使用してきた。早朝に起きて汲みとり、水がめ等に貯水して使用した。また、飲用水としてだけでなく、川沿いの家では、食器類も洗っていた。

上流で腸チフス等の伝染病が発生すると、下流でこのように川水を使用する家庭からは、伝染病患者が発生し、蔓延することもあった。

◆新発田川で魚を採る

新発田川にもコイ、フナ、ウナギ、タナゴ、ドジョウ等が棲んでいて、子供達は、魚採りをしていた。場所によってはアユもあがってきていたほど新発田川はきれいだった。

◆川戸に新発田川との関係を見る

現在はあまり見ることがなくなったが、川沿いの家では、洗い場を設けて川水を使用した。その場所を「川戸（かわど）」と言い、川に面した雨雪を凌ぐ簡素な独立した建物であった。対岸からは見えないように、川面に向かって板で覆われていた。内部には簡単な棚が取り付けてあり、台所近くに建ててあった。

また、道路に面した川には、所々に水面近くにおりて、共同で使用できる場所もつくられていた。新発田川は、まちの人達の生活用水であり、また、防火用水の役割も果たしていた。

写真提供：川瀬 勝一郎氏

現存する川戸

◆コラム「川水神様を祀る日」

川水神様の日は一二月一五日である。この日は毎日の生活に最も大切な水に感謝し、水の大切さを改めて心にきざむ日であった。

周辺の農家では、ほとんどの家で水神様を祀っていたが、まちでも毎日水を使う料理屋、菓子屋、豆腐屋、魚屋や、川に沿った家などでは祀っていたものだった。

当日は、水の大切さを新たに心にきざむため、水を使わない日になっていた。

どうしても必要な雑用水は前日の晩に、桶やたらいなどを総動員して沢山汲んでおき、それを大切に使ったのである。洗濯物なども前日に済ましておき、風呂もたてなかった。まちでは豆腐屋は休み、農家で水車のある家は水車も止めていた。

「山渓カラー名鑑 日本の淡水魚」山と渓谷社　撮影：田口 哲氏

フナ

「山渓カラー名鑑 日本の淡水魚」山と渓谷社　撮影：田口 哲氏

ウナギ